



BELOW WATER

OLIVER LUCANUS — Photo & Text

オリバー・ルカヌスが贈る水中世界 Vol.6

テトラたちの隠れ家

ボリビアのマモレ川上流の沼に浮かぶルドウヰジア。これらの浮遊植物は、タエリア・オブリアアやアフィオカラックス、モンクホーシャの仲間など、多くのテトラ種にとって水面からの大切な隠れ家となっている。

【撮影地】
ボリビア マモレ川 上流

【生物】
Thayeria obliqua Eigenmann
Moenkhausia species

OLIVER LUCANUS

オリバー・ルカヌス (54)

ドイツ、バイエルン州生まれ。30年以上に渡り、世界中で魚の棲息環境を撮影し続けている。[Xingu Below Water] など写真集を発売。カナダ、モントリオール在住。IEPA会員。



CREATOR WORKS

Daichi Araki
NATURE AQUARIUM W1,800 x D600 x H600 (mm)



©AQUA DESIGN AMANO

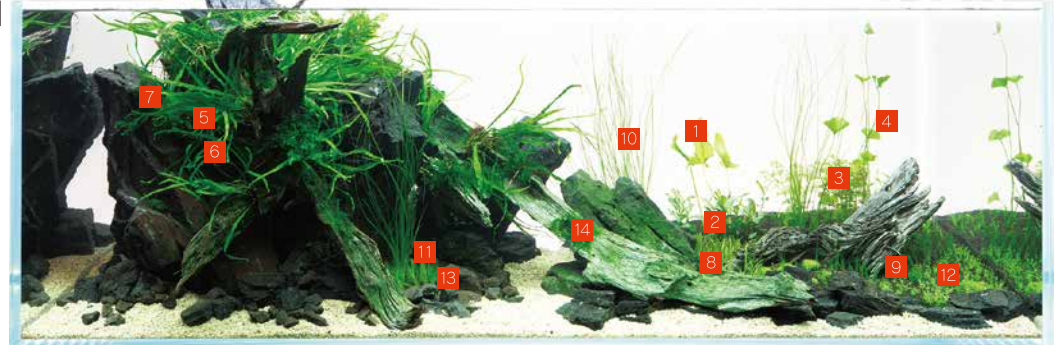
「水辺の移ろい」日本の水辺における渓流域と湖沼域の景観や植生の変化を一つの水景表現とした習作。水草の選択については日本産にこだわらず、日本産水草が持つ雰囲気と近似した水草を用いた。また銀鱗きらめかせるバリリウスの群泳は、水の流れの強調表現にもつながった。

CREATOR WORKS

Daichi Araki
NATURE AQUARIUM W1,800 x D600 x H600 (mm)



植栽



2021年12月27日撮影

完成



2022年7月7日撮影

TITLE
水辺の移ろい

DATA

制作日 2021年12月27日
撮影日 2022年7月7日
制作 荒木 大智 (ADA SUIKEI CREATOR)
水槽 キューブガーデン W1,800×D600×H600(mm)
照明 ソーラーRGB ×3 (1日8時間30分点灯)
ろ過 スーパージェットフィルター ES-2400 (バイオリオG)
素材 山水石、ホーンウッド
底床 アクアソイル・アマゾン Ver.2、パワーサンド・アドバンスL、
バクター100、クリアスパー、トルマリンBC、
トロピカルリバーサンド

CO₂ バレングラス・ピートル 500、CO₂ピートルカウンターで
1秒に5滴(タワー使用)
AIR リリイパイプP-6によるエアレーション 夜間消灯時15時間30分
添加剤 プライティK、グリーンプライティ・ミネラル、
グリーンプライティ・アイアン、グリーンプライティ・ニトロ
換水 1週間に1度 1/3
水質 水温25℃ pH:6.2 TH:50mg/L

水草 ① ナガバコウホネ *Nuphar japonica*
② ホソバノウナギツカミ *Persicaria hastato-auriculata*
③ キクモ *Limnophila sessiliflora*
④ ヤナギモ *Potamogeton oxyphyllus*
⑤ ミクロソラム・ナローリーフ (BIO) ※ *Leptochilus* sp. 'Narrow Leaf'
⑥ プセファランドラ・シンタン (BIO) ※ *Bucephalandra* sp. 'Sintang'
⑦ ボルビティス・ヒュデロットィ (BIO) ※ *Bolbitis heudelotii*
⑧ フリックシャートルーフ (BIO) ※ *Blyxa novoguineensis*
⑨ インディアン・クラススラ (BIO) ※ *Microcarpaea minima*
⑩ エリオカウロンsp. ソーシャルフェザーダスター *Eriocaulon* sp. 'Social Feather Duster'

⑪ エキノドルス・テネルス・マディラ *Helanthis tenellum 'Madeira'*
⑫ リシア (BIO) ※ *Riccia fluitans*
⑬ ヘアーグラス (BIO) ※ *Eleocharis acicularis*
⑭ ウイローモス (モスバッグ) ※ *Taxiphyllum barbieri*

魚種 バリリウス・バケリ *Barilius bakeri*
ニジロボウズハゼ *Stiphodon* sp.
カゼトゲタナゴ *Rhodeus smithii smithii*
サイヤミーズフライングフォックス *Crossocheilus oblongus*
オトシクルス *Otocinclus* sp.
ヤマトヌマエビ *Caridina multidentata*

©AQUA DESIGN AMANO
※はADA生体製品ラインナップです。

SUIKEI CREATOR INTERVIEW

荒木 大智 Daichi Araki

日本の水辺を凝縮した心象風景を表現

—— この作品はちょっと変わった構成に見えますが、その制作コンセプトから聞かせてください。

左側が上流域の表現、右側が下流域の表現になっていて一つの水景の中で2つの流域の表現を取り込もうと試みました。挑戦的な水景だったと言えます。インスピレーションとしては日本の水辺なのですが、川の流れて上流域、中流域、下流域とあって、それぞれ景観の様子も違い、そこに生える水草の種類も変わってきますよね。その変化がテーマとなっています。もう少し具体的に言うと、左側は山の中の渓流域を表現しています。渓流域にある水辺の特徴としては、岩が多く、水の流速は速くエネルギーを感じます。そのため岩が削られたり、表土がさらわれたりします。こうしたエリアに自生している植物と言えば、石や倒木に着生するシダや苔の仲間でしょうか。一方、右側は下流の主に湖沼域をイメージしてレイアウトしてます。湖沼は水の流れとしては比較的穏やかな場合が多いですし、沈水植物、抽水植物など多種多様な水草の仲間が見られるようになりますよね。こうした変化を一つの水槽に凝縮したようなイメージで制作しましたが、正直難しかったですね。自業自得ですけど……。

—— 確かに発想は斬新ですね。左右で構図素材の選び方も違ってきますよね。

そうですね。構図素材で言うと左側は石にせよ流木にせよ大きくゴツゴツしている感じ

で、右側にいくとそれらが水流で削られ流れ着き、朽ちた様子を表現するために割と小さな石や流木を配置しています。構図写真を見ていただくと、左側から右側にかけて穏やかな様子になっているのがわかると思います。また中央部分では一本の大きな流木を斜めに配置していますが、ここは空間の確保も兼ねて標高の高い所から低い所への流れを表現し左右の景観をつなぐ橋渡しの役割を持たせています。

—— 上流域と下流域の変化が作品のテーマということですね。

はい。今回の水景は「水辺の移ろい」というタイトルをつけたんですが、日本は自然が豊かで山がたくさんある分、それに応じてたくさん川の川があります。渓流は幅が狭く流れが早いのですが、標高が低くなるほどこうした流れがたくさん集まり、幅の広い緩やかな川となっていきます。そうした日本の水辺の景観の変化、植相の変化が面白いと常々思っていたんです。川遊びをした清流、魚と

りをした湖沼などそんな少年時代の体験もこうした発想につながっていると思います。

—— 要するに身近な自然がヒントになっているということですね。

そうですね。私たちが住んでいる日本のフィールドは、とても繊細で魅力的です。また少しの移動で渓流域から平野部の下流域まで観察できます。今回の作品制作でも渓流域に赴いてそこを観察して中流域を移動し観察して、そこからさらに降りて湖沼に行ってフィールドを観察しインスピレーションを膨らませました。

—— 水草も日本産水草が使われているようですね。

日本の水辺をイメージしているので、使える日本産水草はできるだけ使用するように考えました。ヘアグラス、コウホネ、キクモ、ホソバナナギツカミなどの水草です。しかし日本産水草にこだわったわけではなく、熱帯

の水草も使っています。エキノドルス・テネルスなどもそうですが、こうして使ってみても日本の水辺のイメージを崩すような存在ではありません。あくまで日本の水辺の繊細でやさしいイメージを表現してみたつもりです。

—— かなり挑戦的な制作だったんですね。

そうとも言えますね。左右で違う世界観のレイアウト構成や水のエネルギー、日本的な情緒だったりともう明らかに難しいんです(苦笑)。私も今までにやったことがありませんし、今回それがうまくいったかと言えば、もう少し左右のイメージをフュージョンさせるというか融合させてもよかったのかなと思っています。でもこうした試行錯誤が新たな表現のきっかけになると思っているのでいろいろな学びはありましたね。

—— 本誌vol.343で紹介した「水辺を想う」も日本の水辺がテーマになっていたと思いますが、今回の作品との関連性はありますか。

ありますね。AJでの紹介は「水辺を想う」が先になりましたが、実は制作自体は今回の作品の方が先でして「水辺を想う」は今回の作品の右側のイメージを広げた表現なんです。レイアウト表現を探索していく上で、同じテーマで連作することによって自分なりのイメージという表現が確立されていくということがあるので作品表現が似通ってしまいますね。とにかくこの2作品では、水草特有の美しさを存分に楽しめるような表現も目指していまし

CREATOR WORKS

Daichi Araki
NATURE AQUARIUM W1,800 x D600 x H600 (mm)



左:今回の作品制作のインスピレーションを膨らませた溪流の風景。(撮影:荒木大智)

右:日本産の水草をできるだけ多く植栽した。

た。近年は構図素材の印象が強い水草レイアウト作品を目にする機会が多い印象もあり、透明感ある柔らかな水草が印象的な水景の魅力を伝えたいと考えていた影響もありますね。

—— なるほどわかりました。制作してから3年ほど経っていることになりましたが、今改めて作品を見てどう思われますか。

あくまで自己評価ですが、面白くは思いませんね。構成がユニークできれいだと思います。表現の荒さが気になります。もう少しバランスも取れると思いますし、制作時はくっきりと左右の世界観を分けたほうが良いと考えていましたが、今見ると少し違うかなと思いますね。でもこうした表現に挑戦したことはよかったと思います。

—— では難しい点はどこでしたか。

やはり左右の表現を明確に変えているにもかかわらず、全体的に破綻なくまとめるという点でしょうか。この点については今考えるともう少しうまくできたんじゃないかと思っています。ただ左右で世界を分けるレイアウト

パターンというのは、今後も機会があれば挑戦していきたいと思っています。アマゾンやアフリカ地域のパターンなんか面白そうですね。インドのフィールドに出かけたときのイメージもいかせそうです。

—— 確かに荒木さんは海外でもレイアウトセミナーを行なっているので、行く先々で出会った風景などもいい刺激になっていそうですね。

そうですね海外のフィールドは自分にとって非日常の世界なので、どこも新鮮に見えて刺激になります。特に日頃、水槽の中で見ている魚や水草に出会うと感動的であり、独特の地域性を感じます。ただその一方で改めて日本の自然の繊細さ、美しさを認識することにもなっているように思いますし、子どものころに水辺で遊んだ記憶が蘇ってきます。今、ADAの水景クリエイターとしていろいろなレイアウトを制作していますが、ときどきこうした日本の水辺をテーマとした水景に取り組んでみたくなるんですよね。それを原点回帰と言っているのかわかりませんが、今回の作品がまさにそうで私の中の心象風景だと思っています。

構図



2023年6月23日撮影



今回の作品の右側のイメージを広げた作品「水辺を想う」。(AJ343掲載)

MINI NA #06

Mini NATURE AQUARIUM
MAINTENANCE GUIDE

DATA

撮影日 2024年04月24日
 水槽 キューブガーデン W300×D180×H240 (mm)
 照明 マグネットライト G スリム (1日8時間30分点灯)
 ろ過機 ストリームポンプ・ミニ
 素材 万天石
 底床 アクアソイル-アマゾン Ver.2、バクター R
 CO₂ CO₂システム74-DA、ベルグラス・ミニで3秒に1滴
 添加剤 ミニNAリキッド
 換水 1週間に1度 1/2
 水質 水温25℃ pH:6.2 TH:50mg/L
 その他 メタルカバー・ミニ、メタルベース・ミニ



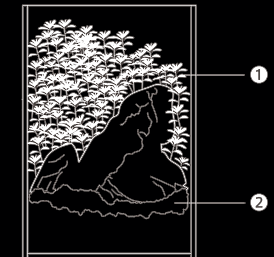
水温上昇は大敵 ミニNAの夏

世間一般にはアクアリウムは夏の涼として認識されていると思うが、それは観る側の立場であって管理する立場からしたら夏は水温が上昇するため危機的状況となる。ご家庭でこうしたミニNAを楽しまれる方は、どちらの立場にもあるわけで夏は何とも悩ましい季節である。ましてや水量が少ないミニ水槽では、ちょっとした外出で部屋のエアコンを切ってしまうと、水温は瞬間に上昇してしまう。こうした問題を解決するためにも部屋のエアコンは通年つけたままにしておきたいのが、アクアリスト共通の願いで

あろうが、家族もしくはパートナーの同意が得られないことも多々あるようだ。そこで頼るアイテムがサーキュレーションファン40である。水槽上部のメタルカバー・ミニに専用マグネットパーツ (別売) で簡単に取り付けることができる。その冷却効果であるが周辺環境の温度、湿度で違いはあるが概ね2~4℃の水温低下が期待できる。気化熱を利用して水温を下げるため、使用すると飼育水の減りが早くなるのでこまめな足し水が必要だ。エアコンや水槽用クーラーでの水温対策ではないので、大幅な冷却効果は得られないが、水温を少しでも下げたいという状況では望みを託したいアイテムとも言えるだろう。あとはミニ水槽ゆえにこまめに換水するのも急場凌ぎになるので、夏の水遊びとして換水作業を楽しみ、その後は涼しげに水景を眺めるのも一興である。



専用マグネットで設置でき、サーキュレーションファン40自体はメタルカバー・ミニに隠れるので外観を乱さない。



植物 ●パールグラス(BIO)※ ●ニューラージ・パールグラス(BIO)※
 生体 チェリーシュリンプ
 ※はADA生体製品ラインナップです。

CREATOR WORKS

Kota Iwahori

PALUDARIUM W600 x D300 x H450 (mm)

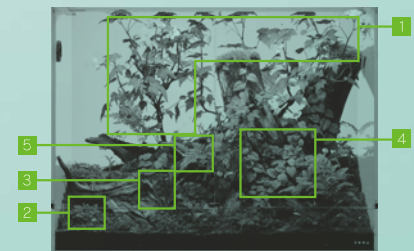


「踊る若木」

熱帯雨林植物、シダや苔などの多くは、保温や保湿することで大きく美しい葉を展開させることができる。このレイアウトではネオグラスパルダ600を用いて、保湿したいがミストフロンシステムまでは必要としない植物を中心に植栽した。湿潤な環境を好むヤクシマスミレや葉先が焼けやすいオニヒノキシダなどが良好に育成していることから適した環境が再現されているとわかる。切株流木を枯れ朽ちた木々、ペゴニア・ドレゲイを旺盛な苗木に見立てて、森の世代交代を表現した。球根種として扱われているペゴニア・ドレゲイだが、パルダリウムにおいては特に休眠などもなく扱いやすい種類と言える。このレイアウトでは、等身大の自然の生々しさを表現することも狙いであった。植物とレイアウトを観賞するために開発されたネオグラスパルダ600は、前面のクリアガラスの扉は必要最低限のパーツのみの観音開きになっており、これほどにまで植物の魅力やレイアウトの臨場感をそのまま伝えてくれるパルダリウムケースはまずないだろう。

D A T A

撮影日 2024年7月30日
制作 岩堀 康太(ADA SUIKEI CREATOR)
水槽 ネオグラスパルダ 600
照明 パルダライト 600 (1日8時間点灯)
底床 ジャングルソイル、ジャングルベース
給水 毎日朝夕の霧吹き(コケが乾燥気味なら多めに、週2回の「佗び草ミスト」)
排水 底床の半分を超えたら排水パーツから排水
湿度管理 エアコンで設置室内26℃管理
時間管理 パワーコード S-70



MAIN PLANTS

- 1 ペゴニア・ドレゲイ
- 2 ヤクシマスミレ
- 3 ヤクシマギボウシ
- 4 フィカス・ブミラ
- 5 オニヒノキシダ

New Style Indoor Green

Style
06

DOOAで提案するガラスケースで主に熱帯植物の育成を楽しむスタイルをさまざまな作例とともに紹介。日々の生活の楽しみとして取り入れてみては。

DATA

CASE
NEO GLASS AIR
W150xD150xH250 (mm)

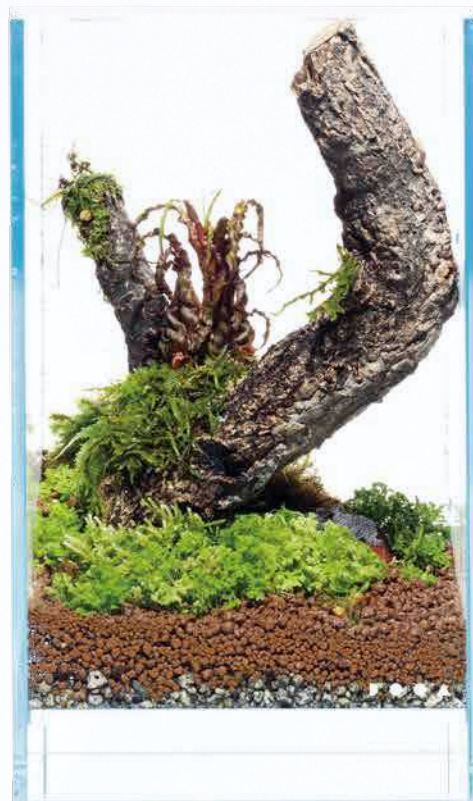
PLANT
ラシナエア・クリスパ

LIGHTING
マグネットライトG スリム 6段階中4~5

SUBSTRATE
トロピカルリバーソイル、ジャングルベース

MATERIAL
コルク

森林性のプロメリアのため、枝状コルクに固定してレイアウトすると雰囲気もよい。波打った葉が特徴的で、水を好むので湿度を保ちやすいガラスケース栽培に適しているが、夏場の蒸れや温度上昇には注意が必要。



DATA

CASE
NEO GLASS AIR
W300xD300xH450 (mm)

PLANT
フリーセア・エリスロダクティロン/
ティランジア・ウスネオイデス

LIGHTING
マグネットライトG スリム 6段階中4~5

MATERIAL
コルク

フリーセアの小型種で主に樹上に着生する。そのため水分と光のほかに風も重要な育成条件となる。写真のような育成システムではタンクに水を溜めて管理するとよく、調子がいいと葉先と株元が黒紫色に染まり美しい。

DATA

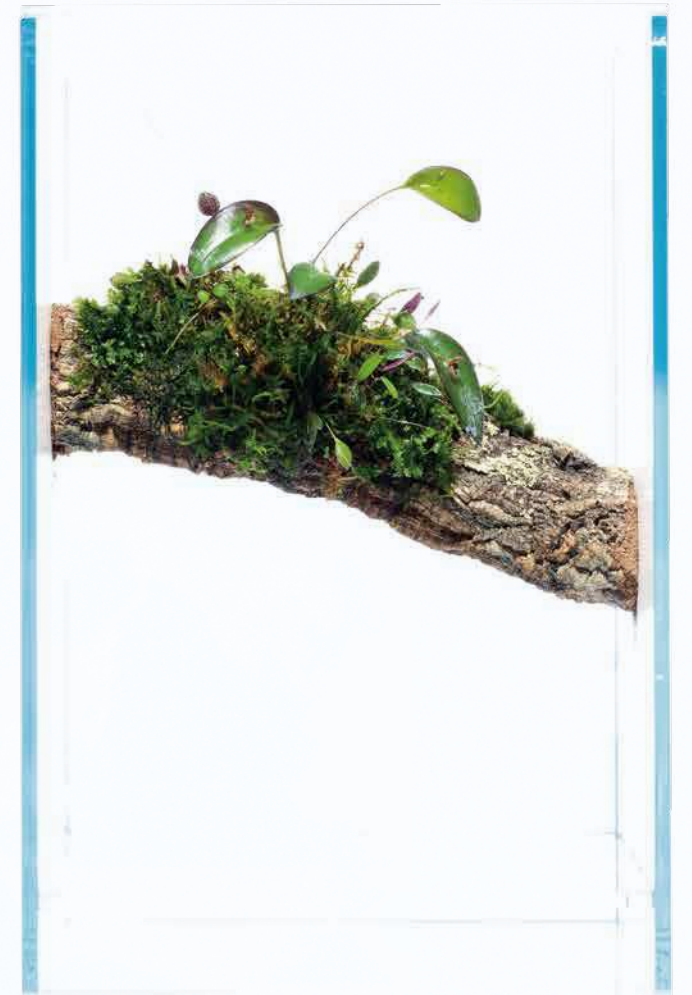
CASE
NEO GLASS AIR
W200xD200xH300 (mm)

PLANT
プレウロタリス・サンコイ/レバント
プシス・アストロフォラ

LIGHTING
マグネットライトG スリム 6段階中2~3

MATERIAL
コルク

レバンテス、レバントプシス、プレウロタリスなどの小型着生ランの仲間。こうしたプランチレイアウトに使いやすい。株元には苔をあしらうようにすると自然感も増し、苔の湿り具合が水分調整の目安にもなる。



KUMU MAKING GUIDE

#06

こだわりのレイアウトを楽しむための化粧素材「KUMU」。ここでは、それらを用いたレイアウトのつくり方や実用的なテクニックなどを、順を追ってわかりやすく解説します。

HOW TO MAKE

01



KUMU
オウコストーン

オウコストーンを接着し、4つの石群パーツを制作。

02



パワーサンドアドバンスや底床添加剤を使って底床をセットする。

03



仕切り板を使って手前にDOOAトロボカルリバーソイル、奥にアマゾンver.2をセット。

04



1でつくった4つの石群パーツをバランスよく配置。数パターン試行錯誤し、最終的にこの構図に落ち着いた。

05



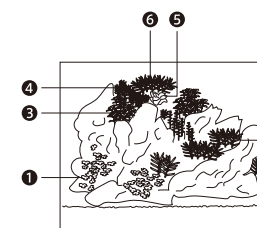
KUMU
ヘーゼルグラベルS

ソイルの色との相性を考え手前にヘーゼルグラベルを敷いた。

06



石と石の隙間に水草を植栽し、カラフルで温かみのある水景に仕上げた。



DATA

- キューブガーデン W300×D180×H240(mm)
- トロボカルリバーソイル、アマゾンver.2、パワーサンドアドバンスS、バクター100、クリアスパー、トルマリンBC
- KUMUオウコストーン、KUMUヘーゼルグラベルS
- 植物
- オーストラリアン・ドワーフヒドロコチレ(BIO) ● ベトナムゴマハグサ(BIO) ● パールグラス(BIO) ● ロターラ・インディカ(BIO) ● ロターラ・マクランドラ(BIO) ● ロターラ・レディッシュ
- 魚
- ボララス・ブリジッタエ、ミクロラスボラ・フルネオン、アンティウス・ペンタソナ・ジョホレンシス

IAPLC CREATOR'S FILE #17 Mark Clifton

世界トップレベルの水草レイアウトコンテストである「IAPLC」。このクリエイターズファイルでは、その上位入賞者にインタビューを行い、上達の秘訣や水草レイアウトに対するこだわりを紹介いたします。

ファビアン ベックさんのSNSアカウント



PROFILE

マーク・クリフトン

Mark Clifton

年齢 / 45歳
 国名 / オーストラリア
 職業 / 絶滅危機にある植物の遺伝、繁殖、保全に関する博士課程
 アクアリウム歴 / 15年
 趣味 / ハイキング、音楽
 過去の受賞歴 /
 IAPLC2020 123位
 IAPLC2021 85位
 IAPLC2023 33位

水草レイアウトに対する情熱を共有し 自然に対する敬意を表すことに 喜びを感じる

Q 水草レイアウトを始めたきっかけは何ですか？

IAPLC2013に関するオンライン記事を見て水草レイアウトに興味を持ちました。出品物の素晴らしい水槽の数々を見て、自分も細かな水中庭園を制作して家の中に自然の断片を取り入れたいと思いました。

Q 水草レイアウトのどのようなところに魅力を感じますか？

私は植物が大好きなので、この7年研究してきました。特に水辺植物、シダ植物、コケに惹かれます。水草レイアウトは、たくさんの水草とともに生態系の縮図を家の中にもたらししてくれます。家族や友人たちも楽しめるように、私は家で水槽のある空間を楽しんでいます。



ブルー・マウンテンズ国立公園の風景。

Q 今回のレイアウトのテーマやモチーフ、アイデアはどこから得ましたか？

いろんなところから着想を得ています。博士課程の研究の一環でオーストラリアの人里離れた森でフィールドワークすることがあり、そこには沢山のインスピレーションがあります。また、私はオーストラリアの最も美しいブルー・マウンテンズ国立公園で子供時代を過ごしたので、いつも自分の作品にはブルーマウンテンで出会う熱帯雨林の生態系を要素として取り入れたいと思っています。そして何より、仲間のアクアスケーパーたちからいつも刺激を受けています。

Q レイアウトをする上でこだわりのグッズはありますか？

私は制作するすべての水景の流木を自分で



豊富な素材をストックしている。



Momentum Aquarium Size W1,200×D500×H500(mm)

水草：キューバパールグラス/ニューラージパールグラス/ニューパールグラス/ヘアグラス/グロッソスティグマ/ヨーロピアンクロバー/オーストラリアン・

ドワーフヒドロコティレ/ブセファランドラ sp./アマビアス・ナナ/アマビアス・ナナ・プチ/ボゴステモン・ヘルフェリー/ロタラ・ブラッドレッド/グリーンロタラ/モス sp./クリスマスモス/ウィローモス/ウォーターフェザー/プレミアムモス 魚種：ボラス・マキュラータ

用意しています。幸運なことに、私が住んでいる地域には倒木した古いユーカリの木がたくさんあり、そこで使用する流木として採取しています。私はいつもあらゆる形とサイズを入手するので、イメージとデザインにピッタリ構図を組むことができます。

Q レイアウトを制作していく過程で、苦労した点や工夫した点はありますか？

IAPLC2023出品物の構図づくりは今まで取り組んだ中で一番難しいものでした。構図となる各流木の背後にアクアソイルを盛りました。流木の構図をソイルの層の擁壁となるよう構築し、それを水槽内で美しい景観にすることは非常に困難でした。

Q 水草や魚種の選定する上でポイントについて教えてください。

水景のテーマと色彩の対比を考えながら適合する水草を選んでいきます。例えば、IAPLC2023の応募作では、熱帯雨林の生態系を再現するため、より多くのコケやシダ植

物を使用しました。また、夕暮時の森を表現するため、水面に反射する強い対比色として、背景にロタラ・ブラッドレッドを使用しました。加えて、私は常にヨーロピアンクロバーやグロッソスティグマ・エラティノイデスといったオーストラリア固有の種を使用するようにしています。また、魚に関しては、ボラス・マキュラータなどの鮮やかな色彩を持つ小型種を選ぶことを心がけています。これにより、水景に深みと色彩の対比を加えることができます。

Q レイアウト制作でいつも心がけていることがありますか？

水槽の上部だけでなく水槽内の左右からの反射にとっても意識しています。また、水景にできるだけ奥行をつけることが大切だと思っており、これは構図の段階でつくりだすわけではありません。さらに、明暗の融合バランスを保ち、水景にマイナスとなる空間をなくすよう心掛けています。

Q コンテスト入賞の秘訣はありますか？

最も重要なことは、構図組みのときに焦らないことです。私は、満足のいく構図を組み立てるまで1カ月はかけます。

Q IAPLCに応募するきっかけ、また、醍醐味はどんなところにあると思いますか？

毎年、自分に挑戦することが好きなのでIAPLCに応募します。IAPLCの好きな点は、世界ランキングが発表されると世界中のレベルの高い水景を見られることです。

Q 世界中の水草愛好家の皆さんにメッセージをお願いします。

水草レイアウトに対する情熱を共有する世界コミュニティに参加し自然に対する敬意を表すことができることに喜びを感じています。枠を超えながら、経験豊富なアクアスケーパーだけでなく、新しく始める人たちがインスピレーションを与えるユニークなレイアウトをつくり続けてください。



流木を層状に組んで、独創的な構図をつくりげた。



撮影することも、水草レイアウトの楽しみの一つ。

超大判フィルムの世界

第4回 雪割草の花 (1996年撮影)

フジクローム・ベルビア (RVP) 11×14 in

※このページではカラーリバーサルフィルムの色をできるだけ忠実に再現し、実物の約70%の大きさに縮小した画像を掲載しています。

天野 尚と愛用の大判カメラ
1 8×20 in 2 8×10 in
3 11×14 in
4 4×5 in 5 5×7 in



超大判フィルムによる新しい表現への挑戦

1990年代、超大判フィルムによる水景写真と風景写真の撮影を始めた天野 尚は、それ以外にもイメージ撮影などさまざまな撮影に取り組んでいる。以前からADAの雑誌広告やカタログに掲載する製品のイメージ撮影は天野自身が行っていたが、1994年の年末にADAの本社新社屋が落成してからはその撮影方法がさらに進化していた。新社屋には白ホリゾントを備えた本格的な撮影スタジオがつくられ、撮影できる写真の幅がさらに広がったのである。特に力を入れていたのが広告・カタログ用のイメージ撮影で、当時の天野は新しい撮影テクニックやライティングを試すことに没頭していた。ただし、それらの撮影に多く用いられたのは6×6 cmや6×8 cmなどの中判フィルムであり、大きくても4×5 inの大判フィルムまでで、8×20 inと11×14 inの超大判フィルムの出番はほとんどなかった。コスト的な問題もあったが、最大でもA4見開き程度の誌面で使用するには超大判フィルムは明らかにオーバースペックであり、印刷原稿として対応できない出版社も多かったためである。そんな折、地元の雪割草生産者から天野のもとにある依頼が舞い込んだ。その内容は、自社のカタログに使用する雪割草の花のイメージカットを撮影してほしいというものだった。この依頼に、天野は11×14 inの超大判フィルムを用いて撮影することを思いついた。それは超大判フィルムによる新しい表現への挑戦でもあった。

新潟県には雪割草の中でも大きな花を咲かせるオオミスミソウが自生しており、天野の地元にある角田山はその有名な自生地の一つだった。しかし、当時は乱獲により数が激減し、山取りの株ではなく生産者が殖やした株が園芸業界の主流となっていた。オオミスミソウ最大の特徴は、花の色や形が変異に富んでいる点にある。その点に注目した天野は、11×14 in判フィルムの画面全体をさまざまな色や形の雪割草の花で埋め尽くすことを思いつく。そして、それを実現するために使用したのが、1200 mm四方で水深が150 mmほどと極めて浅い、特殊な形状のガラス水槽だった。この水槽に浅く水を張り、そこに依頼主の生産者から提供された大量の雪割草の花を浮かべる。それを真上から俯瞰撮影で捉えるのが天野の狙いだったが、そのためには重さ約15 kgもある超大判カメラを、水槽の直上2 m以上の場所に、水平に設置する必要がある。そのために用いたのがスタジオに備えられていたカンポの大型カメラスタンドとマンフロットの大型ギア雲台で、そこに11×14 inの超大判カメラが取り付けられた様子は、まさに壮観の一言だった。高い脚立に上がり不安定な体勢でその超大判カメラを操作する天野の姿に、見ているこちらの方がハラハラしたことを覚えている。こうして撮影された写真は、単なるイメージカットの域を超え、アート作品としても鑑賞できる天野お気に入りの一枚となった。



雪割草の花の撮影に用いた水槽は、製品のイメージ撮影用に特注で製作されたもので、この水槽で撮影した音楽CDのイメージカットが前年の「アクア・ジャーナル」の広告に掲載されている。ちなみに、この音楽CDの収録曲はネイチャー・アクアリウムをイメージして作曲されたもので、天野が提唱していた「五感で楽しむアクアリウム」を具現化したアイテムの一つである。(4×5 in)

水草道!

考えるアクアリスト



ネイチャーアクアリウムを
楽しもうって

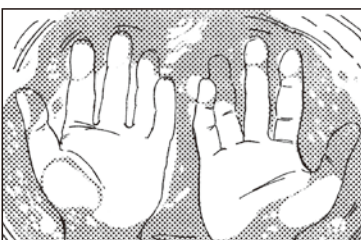


Illustration / Hayase Kato



Aquarius grandiflorus
エキノドルス・アルゼンチネンシス

盛夏、エキノドルスの生長が止まりません! 強い日差しをエネルギーに変えて、力強く育っています。言うまでもありませんが、植物は本来屋外で生息するものです。特に水辺の植物は、強い光を浴び、十分な肥料を与えられれば、他の植物では考えられないスピードで生長し、毎日違った姿を見せてくれます。エキノドルスには、夏バテや熱中症といった言葉は無縁ですね。そういえば、エキノドルスの属名が変更になりました。生体製品名も変更しないといけないかもしれませんね…。



ネグロ川を遡上していると、熱帯魚漁師の船を見かけることがあった。そばには即席の生簀があり、中にはカイジナル・テトラなどがストックされていた。軽はずみには言えないが、ジャングルの細流に生身で入り、手網で熱帯魚を掬い取るという原始的なこの方法は、需要を満たし、環境へ配慮するという点において、案外バランスが取れているように思えた。

日々植物の育成に勤しむ松本 隆介の視点で、毎月ひとつ植物を紹介いたします。

PLANTS PORTRAIT

Photo & Text / Rinsuke Matsumoto

アマゾン回顧録

Text / Taroishi Ohwa

STAFF CREDIT

Publisher
天野 のぶ

Art Direction
NATURE AD DESIGN

Design
丸山 悟司 / 市川 亮 / 高遠 将史
加藤 颯世

Editor
岩堀 康太 / 松本 隆介

Supervisor
大岩 剛

Photo Supervisor
阿部 正敏

Published by
株式会社 アクアデザインアマノ
https://www.adana.co.jp

Printed by
株式会社山田写真製版所



NEXT AQUA JOURNAL

NOV. 2024 vol.349
2024年10月10日 (木) 発売予定



アクアジャーナルの情報は一部、
ADAホームページで公開しています。
AQUA DESIGN AMANO CO.,LTD.
©2024 Printed in JAPAN

INFORMATION

Cube Garden Superior

スライドガラスフタ付



フタをスライドすることでガラスケース内の曇りを解消することができます。

※8種類のサイズをラインナップしております。
※受注生産につき納品にはお時間をいただきます。
※全国のADA販売特約店でお求めください。

ラインナップはこちら



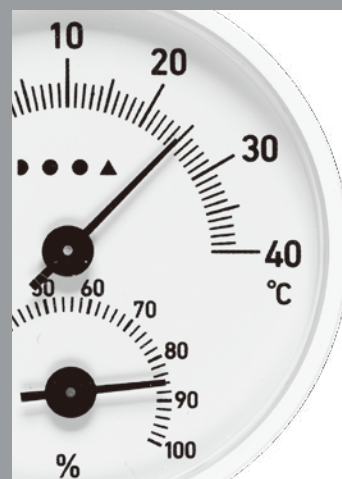
W200×D200×H200mm

キューブガーデン・スペリア (フタつき) の、フタをスライドできる形状に仕様変更いたしました。1995年に販売を開始したキューブガーデン・スペリアは、天野 尚が水景を美しく見せるために考案した理想の水槽です。今回フタの形状を仕様変更することで、バルダリウムにおいてガラスケース内の曇りを容易に解消でき、お気に入りの植物を栽培するのに最高のガラスケースとなります。

MINI NA
Mini NATURE AQUARIUM

ミニ NA セット 150
¥49,940 (税込)

1 Magnet Light G Slim マグネットライト G スリム ¥8,250 (税込)	2 Metal Cover Mini メタルカバー・ミニ ¥5,500 (税込)	3 Metal Base Mini メタルベース・ミニ ¥5,170 (税込)
4 Cube Garden キューブガーデン ¥6,710 (税込)	5 Stream Pump Mini ストリームポンプ・ミニ ¥2,530 (税込)	6 CO ₂ System 74-DA CO ₂ システム 74-DA ¥15,400 (税込)
7 Bell Glass Mini ベルグラス・ミニ ¥5,280 (税込)	Mini NA Liquid ミニ NA リキッド ¥1,100 (税込)	8



T-H METER II

T-HメーターII

従来のT-Hメーターから文字盤・フレーム部を白色基調にブラッシュアップしたT-Hメーター IIが発売になりました。シンプルなフォルムはそのままに、より視認性に優れたデザインとなりました。ガラスケース内の温度を知ることで、陸上植物に合った環境を整えながらより長い期間、植物本来の美しさを保って育成を楽しむことができます。

価格: ¥2,860 (税込)

世界の仲間たちとの交流を一緒に楽しもう!

EVENT for IAPLC2024

参加申込受付中

※完全予約制

IAPLC 2024の最後を締めくくるADAの一大イベントを

今年は新潟で装いも新たに盛大に開催いたします。

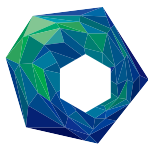
開催日は、2024年11月23日(土)・24日(日)の2日間。

IAPLC2024上位作品の表彰式のほか、2日目はADA本社にてセレモニー参加者限定でNAギャラリー

を解放するほか、オリジナルグッズの販売など"ADAをより好きになる"企画を予定しています。

水草レイアウトに興味のある方であれば誰でも気軽に参加できる楽しいイベントです。

世界の仲間たちと再び、新潟で会いましょう!



IAPLC 2024
AWARD
CEREMONY

DAY.1 NOVEMBER 23
【アワードセレモニー】

会場: ANAクラウンプラザホテル新潟 3F 飛翔
新潟県新潟市中央区万代5丁目11-20
(JR新潟駅よりタクシーで5分・新潟空港よりタクシーで20分)

第1部 14:00 受付開始
15:00 開式 IAPLC表彰式
第2部 16:00 同会場にて会食・パーティー (17:30終了予定)

※ご宿泊先については、「ANAクラウンプラザホテル新潟」
「コートホテル新潟」「新潟東映ホテル」「アパホテル駅前大通」
「万代シルバーホテル」を応募フォームの中でご案内させていただきます。
なお、宿泊先についてはご自身で宿泊予約サイト、
往復JR新幹線+宿セットプラン、国内線航空券+宿泊パックなどを
ご手配いただくことも可能です。



DAY.2 NOVEMBER 24
【IAPLC フェス】

会場: アクアデザインアmano本社
8:30 ANAクラウンホテル前から送迎バス出発
※ご自身でADA本社集合も可能です。
※各自宿泊ホテルからANAクラウンプラザホテルまでの移動については
参加者様負担となります。

9:00 ●NAギャラリー見学、4m水槽見学※シャトルバスにより移動
●オリジナルグッズ販売
●プランツバザール ●キッチンカー
15:00 終了予定(見学終了したい自由解散)

※上越新幹線燕三条駅、新潟駅、新潟空港へのバスを運行します。

■参加方法 事前申し込み(QRコードをご利用ください。)※オンラインURL: <https://amarys-jtb.jp/iaplc2024/>

■応募締切 9月30日(月) 23:59 ※定員になりたい限り終了いたします。

■参加費 1名様: 2日間/大人20,000円(税込)、小人(3歳以上12歳以下) 15,000円(税込)

※オンライン申し込みで宿泊先手配の場合、上記とは別で、宿泊費9,500円~25,000円程度が必要です。

※上記の参加費には、●IAPLC2024アワードセレモニー参加費 ●IAPLC FES 2024参加費

●イベント参加特典【IAPLC 2024 作品集、IAPLC FES 2024 Tシャツ、リストバンド、ネックストラップ など】

●送迎バスおよびシャトルバス利用料が含まれます。※途中参加や1日だけの参加、バスの利用の有無による返金はいたしません。

※11月24日(日) IAPLC FES 2024のみの参加は受け付けられません。※23日に自家用車でご来場の場合は駐車場代が別途かかります。



www.iaplc.com



AQUA DESIGN amano